

東京薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程
「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」
コース履修要項

2021年4月1日

東京薬科大学大学院薬学研究科

【東京薬科大学の開講コース】

1. 緩和ケア医療者養成コース（大学院・インテンシブ）

<対象者>

大学院

薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生

インテンシブ

薬剤師および訪問看護師、ケアマネージャー、栄養士を含むその他の医療人

<修業年限（期間）>

大学院 : 4年

インテンシブ : 4年を目途とする

<養成すべき人材像>

- ① がん薬物療法の支持療法としての緩和ケア（非がん疾患の緩和ケアとの比較も含めて）を理解し、最新のがん薬物療法における知見を踏まえた緩和ケアを実践できる薬剤師
- ② 様々な年齢（小児、AYA世代、高齢者など）、場面（在宅、緩和ケア病棟、外来、就労など）における緩和ケアについて理解し、薬物療法における処方提案や職種間連携体制を構築できる薬剤師
- ③ 職種横断的な部門の構成員として、がん治療を俯瞰しマネジメントを行うことができる薬剤師

<修了要件・履修方法>

大学院

各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること

インテンシブ

所定の講義科目6単位の履修（実習科目の選択も可能）2単位程度をゲノム医療者養成コースまたは緩和ケア医療者養成コース（インテンシブ）に充てる。本学薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生に対する認定制度に準拠した履修者の評価を行い、コース修了後は本学薬学研究科より修了証を発行する。

<履修科目等>

大学院

《必修科目》がん薬物療法の実習（連携大学医学部附属病院における見学実習）2単位を含む所属分野の必修26単位

《選択科目》医薬品情報学、薬物治療学（がんのシステム生物学概論、抗がん剤薬理学概論、緩和ケア、がん臨床研究 等）から4単位

インテンシブ

《選択科目》医薬品情報学、薬物療法学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から4単位

<指導体制：大学院>

本学大学院の緩和医療実践分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。東京医科歯科大学医学部附属病院緩和ケア病棟で本学大学院生を対象とした2～4週間の臨床実習を実施する。臨床実習では緩和ケアの実践を学び、薬物療法の現状を踏まえた専門薬剤師としての素養を身に付けさせる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象とした緩和ケアの基礎から臨床までの講義を受講させ、緩和ケアに関する幅広い知識を修得させる。

<指導体制：インテンシブ>

本学大学院の緩和医療実践分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。臨床実習では緩和ケアの実践を学び、薬物療法の現状を踏まえた専門薬剤師としての素養を身に付けさせる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象とした緩和ケアの基礎から臨床までの講義を受講させ、緩和ケアに関する幅広い知識を修得させる。

<教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想>

緩和ケアに従事する薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師等）

<受入開始時期>

令和2年4月

2. ゲノム医療者養成コース（大学院）

<対象者>

大学院

薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生

<修業年限（期間）>

大学院 : 4年

<養成すべき人材像>

- ① がんゲノム医療における基礎医学の知識を身につけ、トランスレーショナルリサーチの現場で基礎研究者と協働できる薬剤師
- ② プレシジョンメディシンの実践において、ゲノム診断の結果を適切に解釈し治療に反映することのできる薬剤師（Molecular Tumor Board 構成メンバー等）
- ③ プレシジョンメディシンの実践において、患者・家族に対して適切な情報提供・共有をし、治療を継続できる薬剤師

<修了要件・履修方法>

大学院

各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること

<履修科目等>

大学院

《必修科目》がん薬物療法の実習（連携大学医学部附属病院における見学実習）2単位を含む所属分野の必修26単位

《選択科目》医薬品情報学、薬物治療学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から4単位

<指導体制：大学院>

本学大学院のがん化学療法分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。また、連携大学である東京医科大学は本学姉妹校であり、同大学附属病院の10の診療科を中心に、本学大学院生を対象とした2～4週間の臨床見学実習を実施している。これらの診療科にてがん治療の実践を学び、もって専門薬剤師としての素養を学生に身に付け

させる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象としたがん治療の基礎から臨床までの講義を受講させ、がん治療に関する幅広い知識を修得させる。

<教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想>
がん専門薬剤師

<受入開始時期>
令和2年4月

【コースの履修について】

文末にある「コース履修申請書」を東京薬科大学薬学事務課に提出する

【問い合わせ先】

〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1

東京薬科大学 薬学事務課 大学院担当

TEL : 042-676-7312 (ダイヤルイン) Mail : ygakuji-ml@toyaku.ac.jp

がんプロシラバス

種別:緩和ケア医療者養成コース(大学院・インテンシブ)・ゲノム医療者養成コース(大学院)

科目名:臨床腫瘍薬学特論

(Advanced Topics in Pharmaceutical Oncology)

注) この講義は東京薬科大学講義室から、関連施設への遠隔ライブ配信も併せて行う予定です。

1. 担当教員

科目担当責任教員

下枝 貞彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬剤学教室 教授

科目担当教員:調整中(6月開講予定)

2. 主な講義場所

東京薬科大学医療薬学研究棟3階講義室

*:所属施設からの講義担当者による遠隔講義を予定

3. 授業目的・概要等

授業目的

がん薬物療法の基礎と臨床を中心にその現状を理解すると共に、問題点や課題を克服するための対処法や、今後の研究に関する考え方を修得する。

概要

緩和ケア分野では、がん薬物療法の支持療法としての緩和ケアを理解し、最新のがん薬物療法における知見を踏まえた緩和ケアを実践するための講義を行う。特に、様々な年齢(小児、AYA世代、高齢者など)、場面(在宅、緩和ケア病棟、外来、就労環境など)における緩和ケアについて理解し、職種横断的なマネジメントを行うことを理解する。

一方、ゲノム医療分野では、トランスレーショナルリサーチの現場で基礎研究者と協働できるよう、プレジジョンメディシンの実践において、ゲノム診断の結果を適切に解釈し治療に反映することのできる能力や、患者・家族に対して適切な情報提供を行い、治療を継続できるための能力を養う。

4. 授業の到達目標

1. がん緩和ケアやがんゲノム医療の実際とその科学的基盤について説明できる。

2. がん緩和ケアやがんゲノム医療における職種横断的なマネジメントについて概説できる。

5. 授業の方法

講義形式による。

6. 授業内容:調整中(6月開講予定)

7. 成績評価の方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

8. 準備学習などについての具体的な指示

総合基礎および抗がん剤薬理学概論 I、II で取り扱った内容について、復習をしておくことが望ましい。

9. 参考書

講義によってプリント等を配布する場合がある。筆記用具のみ持参。

10. 履修上の注意事項

11. オフィスアワー

毎週金曜日午後 14:00~16:00

科目責任者:下枝貞彦 東京薬科大学臨床薬剤学教授室(東京薬科大学医療薬学研究棟2階)

12. 備考

診療ガイドラインの改定や新薬の発売状況、社会的環境の変化などに応じ、特別補講を行うことがある。

東京薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程

「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」

コース履修申請書

申請日 : _____

学生番号 : _____

氏名 : _____

所属 : _____

連絡先（携帯） : _____

連絡先（メールアドレス） : _____

	緩和ケア医療者養成コース（大学院生）
	緩和ケア医療者養成コース （インテンシブコース）
	ゲノム医療者養成コース（大学院生）

※希望するコースに「○」印を記入

東京薬科大学薬学事務課大学院担当

Mail : ygakuji-ml@toyaku.ac.jp

TEL : 042-676-7312